

「私立大学研究ブランディング事業成果報告会」を終えて“仁”を想う

幼児教育学科長[※] 松川 恵子

平成 31 (2019) 年 2 月、仁愛女子短期大学では、平成 30 (2018) 年度 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業に全国の短期大学で唯一採択されるという快挙に、驚きと歓喜の声がとどろきました。採択された研究テーマは、「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発—シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して—」です。その後、本学では、学長のリーダーシップの下、ブランディング推進室長である増田翼准教授を中心に、幼児教育学科を研究主体として、令和 3 (2021) 年度まで全学的に研究ブランディング事業に取り組んできました。

折しも、全国の保育者養成校では、平成 31 (2019) 年度入学生から新教職課程・新保育士養成課程が施行され、本学でも新しいカリキュラムでの保育者養成が始まろうとしていました。平成 31 (2019) ・令和 2 (2020) 年度は、新保育者養成カリキュラムの中で、学生たちにどのような資質・能力を身に付けてほしいか、それぞれの授業担当者が、それぞれの立場から考え、試行錯誤しながら様々な視点での研究を進めました。

また、「高校・短大・保育現場のシームレスな繋がり」が研究ブランディング事業のテーマですので、高校生が養成校へ入学するときどのような資質・能力を身に付けてほしいか、保育現場ではどのような資質・能力が求められるのか、そして、保育者としてどのように成長していくのか、という「保育者としての成長」を可視化することについても、高校の先生方、保育現場の方々のご協力を得ながら研究を進めました。

そして、令和 3 (2021) 年度には、これまでの研究を基に、研究ブランディング事業の本丸である「保育者

育成のためのキャリア・ルーブリック」の完成へと歩みを進め、令和 4 (2022) 年 2 月 26 日 (土) に、4 年間の研究ブランディング事業の成果報告会をオンラインで開催しました。成果報告会には、オンラインのよさが活かされ、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から多数の方々にご参加いただき、保育現場、高校、行政、養成校、など、様々な職種の方々に本学の取り組みを報告させていただきました。(研究の詳細につきましては、2019 年度・2020 年度・2021 年度各「研究ブランディング事業 成果報告書」および本学ホームページをご参照いただければ幸いです。)

4 年間の研究ブランディング事業の取り組みでは、「高校・短大・保育現場の繋がり」をテーマに研究を進めてきましたが、成果報告会を終えて、私が一番強く思うことは、「研究ブランディング事業」という共通のフレームの中で、本学教職員一人一人が、立場の違いを超えて、緩やかにつながりながら取り組むことができたということです。つまり、「研究ブランディング事業」を通して、本学の建学の精神である“仁”(支え合う人間関係)を発揮し、“仁”を確認することができたのではないかと思います。そして、これこそが本学の“ブランディング”なのではないかと思いました。

今後も、本学では、研究ブランディング事業の成果を検証しつつ、保育者の仕事の魅力(楽しさ・喜び・やりがいなど)を発信し、保育現場の方々をはじめ、保育関係者、地域の方々とつながり、「子どもたちが幸せに成長できる社会」を願って研究・教育活動に精進していく所存です。皆様のご理解とご支援・ご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※令和 4 年 3 月時点での役職です。